

「花岡事件」 80周年慰霊祭への参加

国際善隣協会会長 井出亜夫

2025年7月1日、秋田県大館市信正寺で開催された「花岡事件80周年慰霊祭」に参加して参りました。

「花岡事件」とは、1942年に日本政府が閣議決定し、4万人の中国人労働者を日本に移入し、全国135の事業所に分配し働かせた結果による、慙愧すべき事件です。試験移入を試みた上で、1944年8月より1年間軍需産業地で労働を強いたが、劣悪な労働環境で6830人もの死亡者を出しました。

生き残った人々は戦後、米軍が用意した船で1945年12月の段階で本国に帰国しました。

この事件の実態解明に尽力された当

協会石飛仁会員をはじめとする関係者の皆様の対応に敬意を表する一方、過去、現在、未来への展望を旨とする国際善隣協会としても認識の一端としたいものです。

金子博文さん（実行委員会幹部）、会員の山口直樹さん、同じく飯塚靖さんや学術論文のある張宏波さん（明治学院大学教授）や石田隆至さんが同行されたこともご報告いたします。

今回の慰霊祭のスケジュールは次のようなものでしたが、まず慰霊祭実行委員会石飛仁代表の挨拶を掲載いたします。

長らく隠されてきた「中山寮―花岡事件」の真相をしっかりとつかんだ上でこそ、日中不再戦友好の原点としての信正寺慰霊祭は意義を全うするの思いで、今日まで毎年7月1日花岡事件信正寺慰霊祭を実施して参りました。

本日ここにいらっしやいます信正寺つたや葛谷住職様はじめ、事件発生時以来、3世代にわたり、「怨親平等」おんしんびやうどうの回向



写真① 信正寺本堂前にて当会からの参加者（左から飯塚、井出、石飛、山口）

を捧げていただきましたことに深く感謝するとともに、80周年「7月1日花岡事件」信正寺慰霊祭を関係者・賛同者集いまして挙行できますこと、感激のうちに、合掌申し上げます。

7月1日 信正寺本堂にて

「花岡事件」80周年 信正寺慰霊祭

実行委員会代表・石飛仁



写真② 信正寺本堂に掲げた横断幕

慰霊祭スケジュール

7月1日(火)

信正寺本堂にて、1972年10月の日中国交正常化以前に民間宗教団体などの手により、全国に散乱していた犠牲者(華人劳工)の遺骨2400余りが9次にわたって中国に送還されていたが、その遺骨の法要を終えた遺骨写真2400余りを、今回、本堂内壁面に80周年記念として「七月一日花岡事件慰霊式」と書かれた幕とともに展示した(写真②)。

15時 慰霊祭開始。慰霊祭実行委員会石飛代表の挨拶。
15時20分 信正寺住職蔦谷達徳師による読経。
15時50分 信正寺蔦谷二代目(前住職、現崇福寺住職)達道師のお話。
16時 信正寺の集会室で、きりたんぼ鍋(秋田名物)を食し、石飛

の話、金子博文、井出、張兆梅・張兆蓮(ご遺族)、連続参加の張碧華、山口直樹らの挨拶(敬称略)。
16時10分 信正寺裏の中国人殉難者供養塔前で墓前祭。参加者全員による献花(写真③)。その後、旧鹿島組による供養塔建立と告示板設置の経緯などについて石飛の説明。
16時45分 信正寺境内にある七ツ館中



写真③ 信正寺境内にある中国人殉難者慰霊碑の前で行った墓前祭



写真④ 信正寺前の花岡川の中州で419人の中国人殉難者の名前を書き入れた紙コップにローソクを灯し、灯明供養を行う

魂碑（落盤事故の死没者）と友子碑を前に、石飛が事件発生 of 複雑な背景を説明（雨が降りだす）。

19時 信正寺前の花岡川中州で419人の名前を記した灯明供養（19時30分まで）（写真④）。

7月2日（水）

9時30分 「花岡事件」関係場所のフィールドワーク（石飛の解説）。

花岡川切替工事跡地（落盤事故により花岡川の水路変更工事に中国人が従事）。

10時 中山寮跡地（現在の滝ノ沢沈殿池。花岡鉦山のスラグや廃棄土砂などで埋まり、草木が繁茂）。連行された中国人の収容飯場（「中山寮」）は地面の下。

10時40分 鉦山鉄道花岡駅跡地、旧花岡鉦山病院跡地、旧共楽館（現在の花岡町体育館。逮捕された中国人が捕縛されたまま共楽館前広場に3日間留置）、大館警察署花岡派出所（特高警察官の詰所）。

11時40分 獅子ヶ森（歌諄大隊長をリーダーとする「華人劳工」が逃げ込み鎮圧隊と肉弾戦を行う）。

「花岡事件」とはどのような歴史か

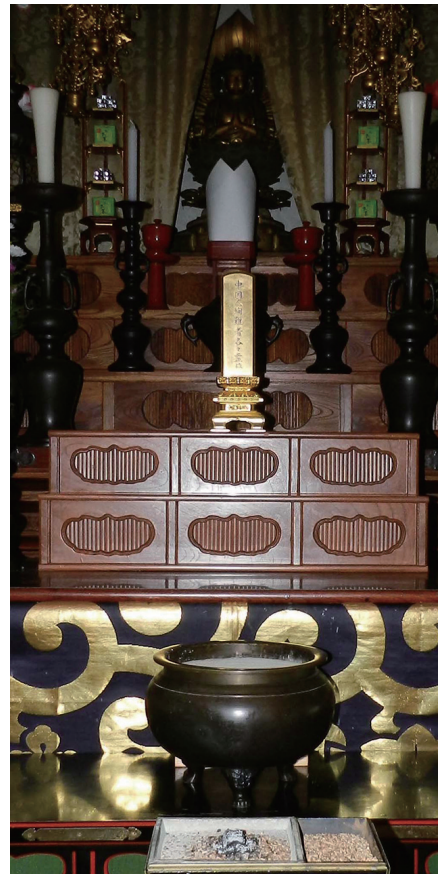
極秘のうちに処理されていた「花岡事件」は、19

45年7月1日秋田花岡鉦山鹿島組の「中山寮」で5人の補導員を殺害し、803人が逃走し、鎮圧隊のべ2万人が包囲する肉弾戦ののち、多数の死者を出した暴動事件だったが、1945年11月の段階で米軍が事実の一端を知り、関係者が逮捕収監され、BC級横浜軍事裁判にかけられた。

1948年3月1日に判決が出て、「花岡事件は終了」したが、4万人の中国人労働者の戦後処理は、激動する国際政治情勢下、日本政府の清算事業は行われぬまま推移した。

内戦を経た中国が北京に新政府を誕生させるころになると、日本全国に散らばっていた犠牲者の遺骨が問題となり、400余の犠牲者を出していた花岡事件跡地などから残骨が掘りだされ、民間調査によって遺骨が集められ、赤十字社を通して中国に遺骨の送還運動が起き、9次にわたって行われた。

1972年9月29日 日中の国交正常化。
1978年8月12日 日中平和友好条約が成立。



写真⑤ 信正寺祭壇の位牌「中国人殉難者各々霊位」

より延退する間、生き証人は高齢死亡する事態となった。

何とか

石飛がこの事実を知ったのは1971年のことで、月刊『潮』1972年5月号などで日中戦争の全容を解明する編集部と連続発表していたのは、日中国交正常化の直前であった。

1984年2月17日 石飛は花岡事件生存者（取材時に知り合った）の意を受けて鹿島建設と平和慰霊事業交渉に入った。

1991年6月12日 紆余曲折のはて石飛の平和慰霊交渉は原則合意に達した。しかし、これに賛同できないとする戦争賠償を求める運動が起き、平和慰霊交渉を戦争賠償にシフトさせようとする民事裁判を起こした。

これが受理されたため、石飛の平和慰霊交渉は一時止まった。民事裁判に

石飛と鹿島との原則合意を生かそうとする取り組みを続けるなか、裁判所からの斡旋という形で鹿島から5億円が中国紅十字会に振り込まれ、「花岡平和友好基金」方式により和解が成立した。

その後、花岡事件の事実を追跡した石飛が天津の日中友好平和祈念堂建設事業を実現させていくプロセスを、資料を駆使して詳細に語り、80周年花岡事件慰霊事業を現地の信正寺関係者の協賛を得て実施していく。

「石飛にプロフィール」

1942年8月生まれ。島根県雲南市三刀屋町出身。1965年駒澤大学文学部卒。

1968年「現代人劇場」結成。新劇人反戦青年委員会代表。

1971年ルポライター、翌年より光文社『女性自身』シリーズ人間班専属記者（30年間）に。1984年「事実の劇場」を結成し、戦時下花岡事件人道問題に取組む。2002年より国際善隣協会会員。アリの街実行委員。

主な著作：『中国人強制連行の記録』太平出版社（1973）、『風の使者・ゼノ神父』講談社（1982）、『夢の砂漠』佐川出版（1983）、『ドキュメント悪魔の証明』経林書房（1987）、『花岡事件』現代書館（1996）、『中国人強制連行の記録（改訂版）』三一新書（1997）、『魂の教育』東林出版（1998）、『風の使者ゼノ（再販）』自然食通信社（1998）、『甦れ古代出雲よ』新泉社（2005）、『花岡事件「鹿島交渉」の軌跡』彩流社（2010）、『花岡事件「秋田裁判記録」』彩流社（2010）、『ポーランドから来た風の使者ゼノ』聖母の騎士社（2023）、その他多数。